

こうまくがいますい ぜんしんますい

硬膜外麻酔と全身麻酔の

ながれ

しゅじゅつ まえ た の
手術の前は、食べたり飲んだりできません。



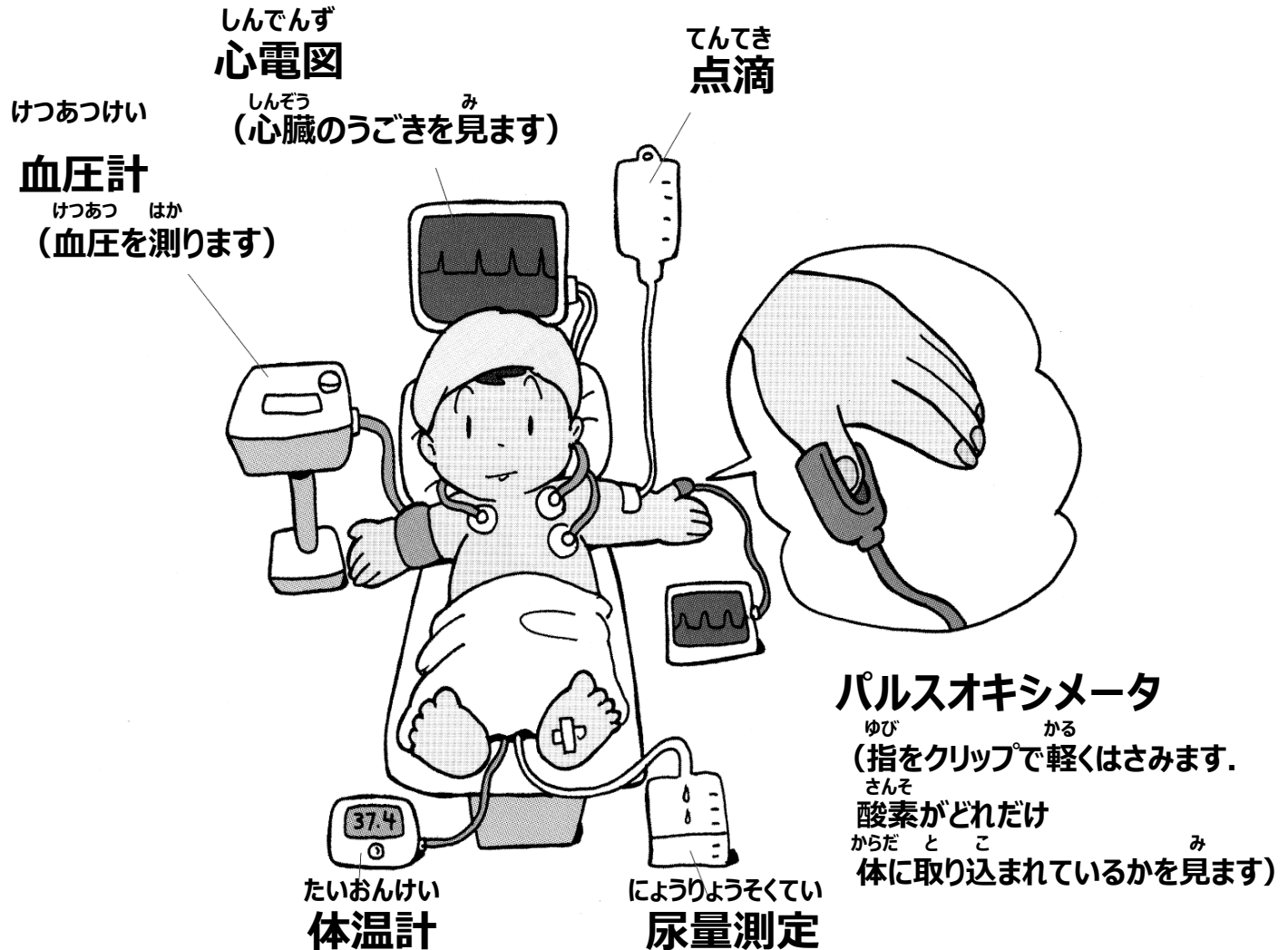
た の い なか のこ じょうたい ますい
食べたり飲んだりしたものが、胃の中に残っている状態で麻酔をかけると
い なか ぎゃくりゅう はい なが おも はいえん お
胃の中のものが逆流して肺に流れこみ、重い肺炎を起こすことがあります。
かなら せいげん
必ず制限をまもってください。

あす ぶん だ の
明日の分のおくすりは、出されたものだけ飲んでください。



しゅじゅつ さい けつあつ さ ち と
手術に際して血圧が下がったり、血が止まりにくくなるおくすりがあります。
わたし かんじゃ の
私たちは、患者さんがどんなおくすりを飲んでいるかわかっていますので、
しんぱい
心配しないでください。

しゅじゅつしつ はい しんでんず けつあつけい
手術室に入ったら、心電図や血圧計などのモニターをつけて
てんてき てんてき にゆうしつまえ びょうしつ
点滴をとります。(点滴は、入室前に病室でとることもあります)



せなか こうまくが いますい おこな

はじめに背中から硬膜外麻酔を行います。

しゅじゅつご いた と のぞ しょち

これは、手術後の痛みを取り除くための処置です。



とお いた ど くすり とうよ

カテーテルを通して痛み止めの薬を投与します

お じょうたい おこな よこむ ひざ
起きている状態で行います。 横向きになって、 膝をかかえ、
ネコのようにまるくなってください。



せなか つ だ ほう はや お
背中を突き出すようにしてください。 その方が早く終わります。

いた ど つか はり さ
じゅうぶんに痛み止めを使いながら針を刺していきます。



こうまくがいますい お つか ぜんしんますい かいし
硬膜外麻酔が終わったら、全身麻酔を開始します。



ふく
ん

しゅじゅつ
手術のあと、
カテーテルにポンプをつないで
いたど
痛み止めのくすりを
じぞくてき とうよ
持続的に投与します

かお

しんこきゅう

かえ

顔にマスクをあてますので、**深呼吸**をくり返してください。

さんそ す

じゅうぶんに**酸素**を吸っていただきます。



てんてき くすり とうよ ねむ
点滴から薬が投与されて、いつのまにか眠ってしまいます。



こきゅう たす くち はな のど おく きかん
呼吸を助けるチューブを口（または鼻）から喉の奥の気管
い かんぜん ねむ いた かん
に入れます。完全に眠ってから入れるので痛みは感じません。



チューブの代わりに、やわらかいマスクを入れることもあります。

しゅじゅつちゆう　　ますい　　かんぜん　　ねむ

いた　　かん

手術中は麻酔で完全に眠っているため、痛みは感じません。

ますい　　かい　　かなら

麻酔科医が必ず

そばにいて患者さん

に^{へんか}変化がないか

^{みまも}見守っています



しゅじゅつ お きかん はい め
手術が終わったら、気管に入っていたチューブを抜きます。



ますい さ びょうしつ もど
麻酔から醒めたら病室に戻ります。

ちよくご さ おぼ
(直後はぼんやりしていて、醒めたときのことを覚えていないこともあります)



しゅじゅつご いた じぶん いた ど ちょうせつ
手術後，痛いときには自分で痛み止めを調節できます



あし きぶん わる いた らく
足がしびれたり，気分が悪くなったりしたときや，痛みが楽にならないときには，
かんごし つた
看護師にお伝えください。

い は きず かのうせい
チューブを入れることで歯を傷つける可能性があります。
は い ば さ ば かた ますい かい
グラグラしている歯, 入れ歯, 差し歯がある方は麻酔科医に
し
お知らせください。



くち ひら かた あご いた かた くび うご かた
口が開きにくい方, 顎に痛みがある方, 首が動かしにくい方,
くび しゅじゅつ う かた ますい かい し
首の手術を受けたことがある方も麻酔科医にお知らせください。